

備える。

準備。予備。整備。設備。守備。警備。
そなえる…用意する、そろえる、用心する
防備。常備。完備。不備。具備。兼備。
そなえ…しだく、用意、警戒、防衛
備品。設備。備蓄。備員。備考。備忘。
そなわる…準備ができる、身に付く
●●●ソナエ アレバ ウレイナシ!!

no. **2**

かわさき
防災広報紙

昭和59年8月31日発行
編集・発行：
川崎市土木局防災対策室
〒210 川崎市川崎区宮本町1番地
TEL.(044)200-2111内線2841



みずか
自ら備える。

水を備える。

水に備える、秋。

みず
水から備える。

水のくみ置き

do it yourself!

みずから、始めよう。

ある日、突然……わたしたちの町を襲う地震。地震による直接の被害の大小とは別に、電気・ガス・水道など、日常の生活を支えるための施設（ライフ・ライン）とも呼ばれています）が被害を受けることによって、便利な都市生活も大きな影響を受け、わたしたちの暮らしは、マヒ状態に陥ってしまいます。

●川崎市では、災害時の応急対策活動を行う場合に、行政と市民との接点となる広域避難場所・地区避難場所などを設けるほか、さまざまな対策を考えています。とりわけわたしたちの生活に欠くことのできない飲料水を確保する対策として、川崎市独自の手法である臨時給水栓の設置などによって給水を行うこ

とにしていますが、万一に備えて家庭でも一日一人3リットルを目安に三日分ぐらいのくみ置きをしておくことが必要です。

●日ごろから、地域や家庭で、避難路や避難場所、そして臨時給水栓の設置場所などを確かめるとともに、各家庭で災害時の食料品や非常持ち出し品の準備などわが家の防災対策を考えておきましょう。

地震時の心得10ヶ条

- 1 まずわが身の安全
- 2 すばやく火の始末
- 3 あわてず冷静な行動を
- 4 正しい情報をつかみ、デマに気をつける
- 5 避難は徒歩で、持ち物は最小限に
- 6 狭い路地、塀ぎわなど、危険な場所に近よらない
- 7 がけくずれ、低地の浸水、そして海では津波に注意する
- 8 自動車は、左に寄せて停車する
- 9 秩序を守り衛生に注意
- 10 となり近所、自主防災組織などによる助け合い

地震に備える

地震のときの避難

●地震のあと、大きな火災が起こったとき、一時的に退避すればよい場合も含めて、「危険だ」と思われるときや、避難の指示が出たときには、避難しなければなりません。

●川崎市では、大火災になる恐れのある地域（要避難地域）と大火災になる恐れのない地域（任意避難地域）に分けて、避難計画をたてています。

要避難地域と任意避難地域

要避難地域は大地震のときに避難する必要性が大きい地域で、避難場所を指定した地域です。災害時には、避難場所へ職員を派遣し、情報連絡などを行います。

また、広域避難場所は、付近の人たちが、直接避難するだけでなく、各地区避難場所が危険になったら、再び避難する場所となっています。

現在、要避難地域は、川崎、幸、中原各区の全域と、高津、多摩区の一部です。

●この避難計画は、昭和52年9月に、地盤・人口密度と可燃性家屋建ぺい率を基準に決定されたものです。

任意避難地域は、特に避難場所を指定していない地域です。しかし、地域の自主防災組織などで、周辺の安全な場所を、あらかじめ避難します。

避難するときの注意

●地域の自主防災組織などで決めた集合場所に集まり、集団で避難する。

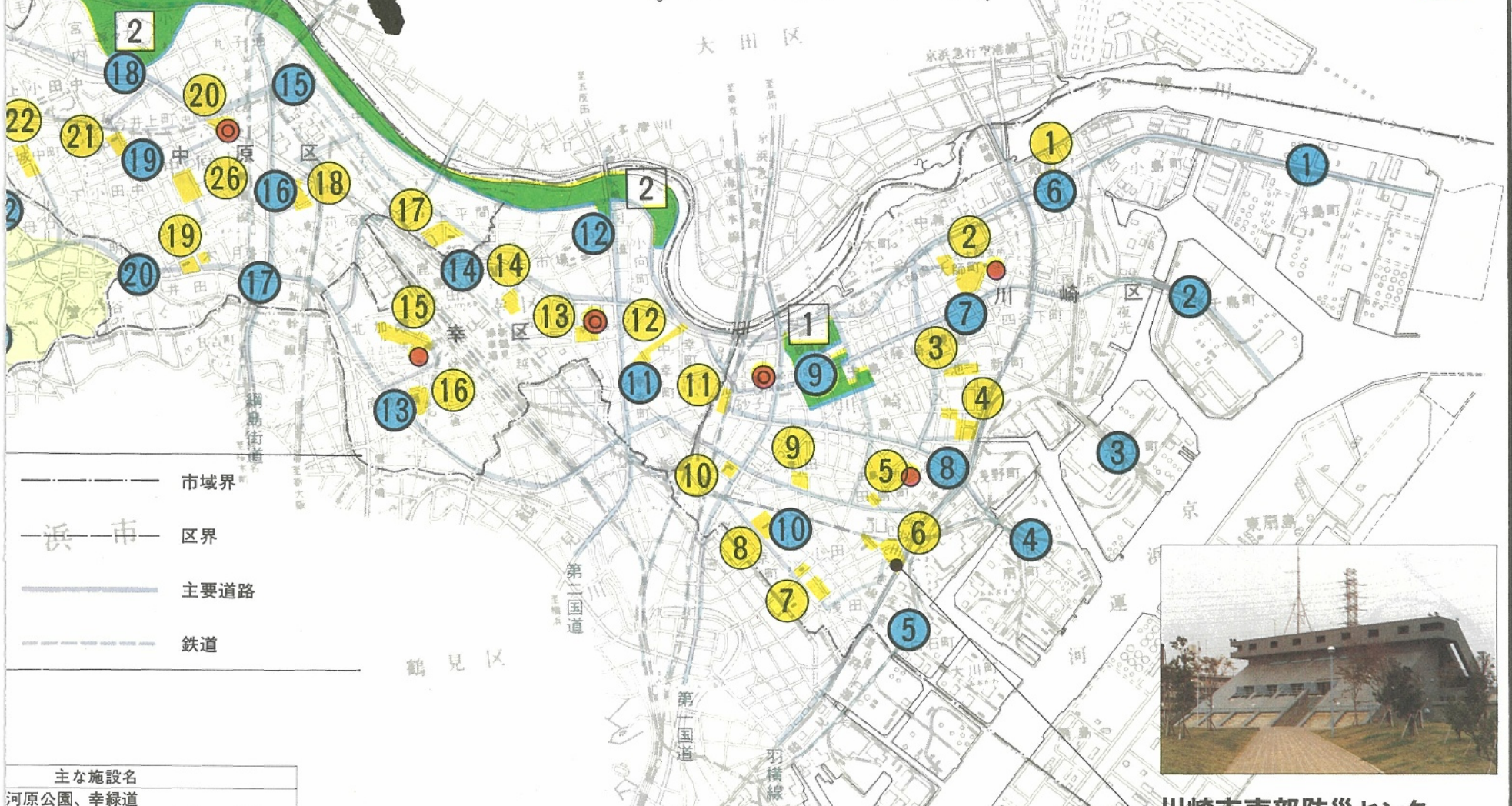
●避難の指示に従う。

●火の元を始末し、電源（ブレーカー）を切り、ガスの元栓をしめて避難する

●動きやすい服装をし、ヘルメットなどで頭を保護する

●必ず徒歩で、自動車は使わない

●この避難計画は、昭和52年9月に、地盤・人口密度と可燃性家屋建ぺい率を基準に決定されたものです。



川崎市南部防災センター
●川崎市南部の人口密集地域に、日本で初めての防災施設として昭和55年に開所しました。震災時などには周辺の地区避難場所と一体となった防災基地となりますが、日ごろは、市民の防災知識習得の場として利用されています。

主な施設名	
河原公園、幸緑道	
商業高	
越中	

地	目 標
幸病院西側	
御幸球場南側	
富士見堂前	
市住宅供給公社鹿島田グリーンハイツ前	

主な施設名	
高、平間小	
平和公園	
西公園	
新城小	
ウインド	

地	目 標
2丁目1369	山王湯南側
35	東住吉小学校前
56	木月陸橋熊ヶ谷タイル前 等々力公園野球場入口 NHK中原寮南側 交通局井田営業所前

高津区

●地区避難場所

番号	名 称	主な施設名
23	溝口	市立高津高、高津中、久本小
24	高津	高津小

●臨時給水栓設置場所

番号	給水場所	所在地	目 標
21	北見方	北見方139	第3京浜道路下渡辺抵器製作所前
22	千年	千年574	千年交差点宮田風呂店前
23	久末	久末637	水道局久末配水塔
24	溝口	溝口771	日本光学高津物流センター
25	新作	新作1895	橋清掃場西側

多摩区

●地区避難場所

番号	名 称	主な施設名
25	登戸	多摩区役所

●臨時給水栓設置場所

番号	給水場所	所在地	目 標
32	堰	堰6	スーパー永井、久地店
33	長尾	長尾6丁目21	産業医学総合研究所南側
34	枅形	枅形3丁目4の1	紀伊国屋
35	菅	菅2376	多摩警察署菅派出所
36	菅	菅4559	ネオコーポ稲田堤
37	三田	三田4丁目6の15	長沢浄水場北側
38	西生田	西生田4丁目15の5	高石歩道橋

宮前区

●臨時給水栓設置場所

番号	給水場所	所在地	目 標
26	野川	野川3007	東急野川団地上林弘孝宅前
27	有馬	有馬6丁目6の1	市営・東急バス、中有馬バス停
28	宮崎	宮崎693	前田泰宅前
29	土橋	土橋3丁目1の1	水道局鷺沼配水所南側
30	向ヶ丘	向ヶ丘1012	大伸荘前
31	菅生	菅生8055	潮見台浄水場東側手塚宅前

麻生区

●臨時給水栓設置場所

番号	給水場所	所在地	目 標
39	千代ヶ丘	千代ヶ丘6丁目14	小田急バス千代ヶ丘バス停
40	万福寺	万福寺14	衛田中自動車
41	王禅寺	王禅寺2724	住友銀行百合ヶ丘支店
42	王禅寺	王禅寺106	東林生郵便局
43	上麻生	上麻生1282	多摩消防署植生出張所裏麻生川、東側
44	白鳥	白鳥2丁目1083	龍月ハイツ
45	黒川	黒川331	小田急バス、黒川分校下バス停
46	岡上	岡上669	温室多摩植物園

水を備える

臨時給水栓

●地震の揺れにより、水道管の破裂などによる断水の心配があります。昭和53年の宮城県沖地震の時に水道施設の復旧には、電気が翌日にはほぼ復旧したのにくらべ、4日以上の日数がかかっています。

●しかし、川崎市の水道は、このような災害に備え、耐震性の高い工法で作られており、61年前の関東大地震ぐらいの地震では、各家庭や末端の小配水管に、ある程度の被害があっても、主な配水管は、地震に耐えられると考えています。

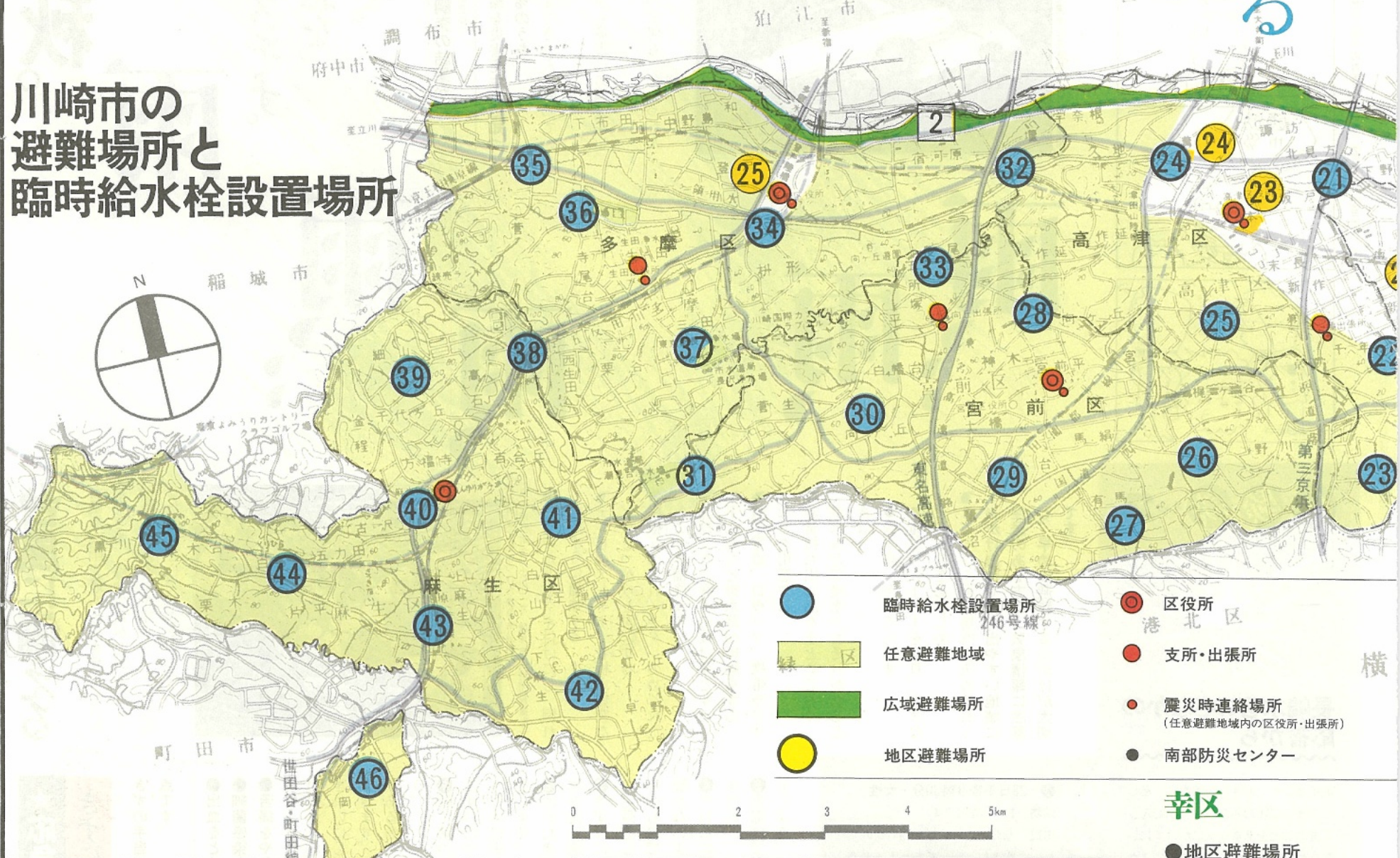
●そこで、地震の時には、これらの送水が可能な配水管を利用して、だいたい1kmに1箇所をメドに、市内47箇所に「臨時給水栓」を取り付けて、市民の皆さんに飲料水を給水します。

●臨時給水栓が使えない地区には給水車などにより飲料水を確保する計画です。

●荷物は最小限にし、両手はあけておく



川崎市の避難場所と臨時給水栓設置場所



- 臨時給水栓設置場所
- 任意避難地域
- 広域避難場所
- 地区避難場所
- 区役所
- 支所・出張所
- 震災時連絡場所 (任意避難地域内の区役所・出張所)
- 南部防災センター

●広域避難場所

番号	名称	主な施設名
①	富士見公園一帯	競馬場・競輪場・野球場・市立川高 他
②	多摩川河川敷	多摩川河川敷・御幸公園・等々力緑地

川崎区

●地区避難場所

番号	名称	主な施設名
①	殿町	殿町小
②	大師	大師公園、平間寺境内
③	池上	東桜本小、桜本中、中留児童公園
④	桜本	桜本小、桜川公園
⑤	田島	渡田小、東渡田第三児童公園
⑥	東小田	東小田小、東小田児童公園、南部防災センター
⑦	小田	田島中、小田公園
⑧	京町	県立川崎高
⑨	渡田	渡田中
⑩	日進町	川崎小
⑪	川崎駅前	国鉄川崎駅東口広場 (工事中につき閉鎖中)

●臨時給水栓設置場所

番号	給水場所	所在地	目標
①	浮島町	浮島町7の1	東燃石油化学株前
②	千鳥町	千鳥町2の1	昭和電工株前
③	水江町	水江町3の3	東洋酸業株前
④	扇町	扇町2の5	昭和石油株前
⑤	白石町	白石町5	旭工業株前
⑥	殿町	殿町1丁目17の15	殿町小学校前
⑦	観音	観音2丁目23の5	宮沢モータース前
⑧	浜町	浜町1丁目10の8	共同石油・オートガスサービスステーション前
⑨	富士見	富士見1丁目1の4	市体育館前
⑩	小田	小田1丁目9の17	小田1丁目中央公園前



幸区

●地区避難場所

番号	名称	主な施設名
⑫	南河原	南河原小、南河原中
⑬	戸手	戸手小、市立戸手
⑭	下平間	下平間小、塚田公園
⑮	加瀬	夢見ヶ崎公園
⑯	南加瀬	南加瀬中

●臨時給水栓設置場所

番号	給水場所	所在地
⑪	都町	都町39の1
⑫	東古市場	東古市場1
⑬	南加瀬	南加瀬2292
⑭	下平間	下平間1の2 (この他幸区役所前にあります)

中原区

●地区避難場所

番号	名称	主な施設名
⑰	上平間	県立川崎工業高
⑱	住吉	住吉中、中原高
⑲	井田	井田小、住吉中
⑳	小杉	中原区役所
㉑	小田中	西中原中
㉒	新城	県立新城高、新城小
㉓	木月	法政大学グラウンド

●臨時給水栓設置場所

番号	給水場所	所在地
⑮	上丸子山王町	上丸子山王町
⑯	木月住吉町	木月住吉町203
⑰	木月	木月4丁目125
⑱	宮内	宮内595
⑲	下小田中	下小田中1345
㉑	井田	井田850

水に備える、秋。

雨

台風、大雨、洪水のシーズンです。

【注意報】には、もっと注意を。

【警報】には、一層の警戒を。

注意報・警報は「オオカミ少年」ではありません。

今から2年前の7月23日に起きた長崎豪雨、それは、死者・行方不明者299人、負傷者805人、家屋の全壊584棟、半壊954棟という大災害となりました。この大災害から1箇月後に主な被災地の住民を対象にアンケート調査が行われました。その結果、「長崎市民の多くは「大雨警報」に無関心でほとんど何の対策もしなかった」ことがわかりました。

私たちがふだん耳にする「大雨洪水注意報」などの気象情報は、広い地域を対象に発表されます。そのため場所によっては、情報どおりの気象状態にならないこともあります。しかし、どこかでそれが起こり、やがては自分のところも危険にさらされる可能性をあらかじめ知らせてくれるのが、気象情報です。自分のところは「まさか」、つまり聞き流しは、自らを裸にして危険にさらすことにつながります。



浜町のアーケード内で濁流に流され重なり合う乗用車 (大広提供)

◎アンケート調査の結果から (京都大学防災研究所)

大雨洪水警報を災害発生前に知っていた人64%のうち、警報の内容まできちんと知っている人11%、半信半疑ながら災害への備えをした人25%、まさかと思つて何もしなかった人75%

台風、大雨に備える

台風や大雨で最も被害を受けるのが家屋です。自分の家がどのような立地条件にあるかを知って、それに応じた備えをしておきましょう。



救援作業に駆けつけた鎌早市消防団 (長崎市戸町、小川二六、鎌早市消防団長撮影)

- 窓や戸などをクギ付けにし、倒れないように補強する
- テレビのアンテナ、看板、煙突などをしっかりと固定する
- 屋根瓦のずれ、トタンのめくれたところを補修する
- 伸びすぎた庭木の枝は落とす
- 下水溝など排水路の掃除をする
- 懐中電灯、ロウソク、携帯ラジオなどを用意する
- 非常持ち出し品をまとめておく
- 洪水などで浸水のおそれがあるときは
 - 畳を高いところへ移す
 - 電気ブレーカーを切り、ガスなどの元栓を必ずしめる
- 日ごろから避難場所を決めておく
- ※がけ崩れや水の出やすい地域に住居のある方は、気象情報に注意し、早めに避難する心がけが大切です。

★応急手当 レッスン②

きずくに備える

☆きずの種類とその手当

- 出血をとめること
- 細菌感染を防ぐこと
- 苦痛をやわらげること

出血があれば止血し、汚れたきずはきれいにし、きずの表面を保護しておきます。どんな傷でも感染の危険があるので医師に診てもらいましょう。

①軽く切ったくらいはきずならば、きず口についていたばい菌を出してしまつたために少し出血させてから手当てをします。

②汚れたきずは、きれいな水で土や泥を洗い流します。

③きず口には、清潔なガーゼをあてて包帯をします。汚れた手や消毒しないもので、直接きず口やガーゼに触れないようにします。

④やたらに医薬品を使用してはいけません。

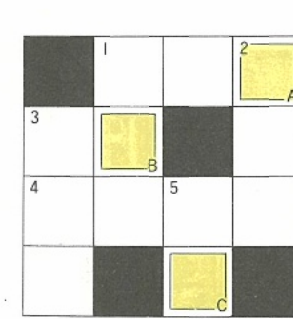
⑤患部はできるだけ高い位置におきましょう。

▼すりきず
皮膚が固いものにこすられた時のきず。浅くても表面積が大きく、汚れとともにばい菌がつきやすいきずで、出血は少ないことがふつうです。水道水などで、土や泥をよく洗い流します。

▼切りきず
刃物や金属片、ガラス片など鋭利な物によるきず。出血や痛みが強く、深いと筋肉、腱、神経を切っていることもあります。

▼さしきず
とがった物が皮膚をつきぬけて身体組織にささつてできるきず。きず口は小さいが深い。出血はそれほど多くないが、感染する危険が大きいきずです。

小さなさしきずなら、手当ての前に、少し血をしばらく出してしまします。ガラスの破片や刃物がささつた時には血管や神経をきずつけないように、るので無理に抜かないように。



★答えは紙面左上

クロスワードパズル

クロスワードを解いてA-Cの文字を順に並べるとひとつの言葉になります。答えは?

- ①避けようとする。責任○○○。
- ②旧約聖書「○記」の主人公。神の命にそむいて、大魚にのみこまれた。
- ③9月1日は○○○○の日です。
- ④タテのカギ
- ⑤願いが実現する。夢が○○○。
- ⑥損害を受けること。台風による○○○。
- ⑦太陽。○○ルム。

とまどい、あわて、オロオロする心

わたしたちは「自分が災害にあうことはないだろう、いや、自分に限っては」と思いがちです。しかし、過去の災害は、けっしてそうではないことを教えています。とりわけ、この事例のような集中豪雨の場合、早めに避難をすることが何よりも必要なことを教えています。



体験談 その2

長崎水害のさなかの応答から

毎年どこかで起きている水害。そして、そこに住む人たちが、ふだん、災害のことをあまり気にかけずいたため、その時になってあわてふためき、なすすべを失い、助けを求めた姿が浮きぼりにされています。昭和57年7月23日の長崎水害のとき、がけ崩れなどの現場から、生々しい声が119番に飛び込んで来ました。—雨量446.5mm(23日17時~24時の7時間のみ) 119番への通報件数 1140件

①—23日午後7時20分ごろ・女性
消防—どうしました
市民—家が浸ってるんですよ、水がやってくるんですよ
消防—あのですよ、出払ってるんですよ、事故ですね。それで人命に危険で避難できないような状態ですか
市民—うちには赤ちゃん和孩子ふたりですよ
消防—赤ちゃん和孩子ふたり困っている、避難できないんですね
市民—はい
消防—あのじゃあ急いで出しますからね、避難できないんですね
市民—橋の横なんです、家が
消防—あの確認しますけど、避難できない状態ですね
市民—出れないんです、雨が降っているから
消防—雨が降ってるからって、どこでも降ってるんですよ
市民—避難できないんですね
消防—雨に打たれても避難できませんか

②—23日午後9時30分・女性
消防—119番消防です
市民—家のうしろの崖が崩れたんですよ。……ああっ！ ああ！ (悲鳴)
消防—もしもし、避難してください、避難を
市民—はい、それからですね……
消防—もしもし、避難をしてください
市民—はい、お願いします
消防—消防局ですが
市民—あ、鳴滝のですね、あの3丁目の……
消防—(聞き取り不能)
市民—はい、今ね、浸水しとったんですよ
消防—……浸水だけですね。あのう、避難区域ですので、あの、今すぐ高い所へ行ってください
市民—あの鳴滝の3の13……(電話切れる)
消防—もしもし
※鳴滝3の13は山崩れ現場